

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	0670400738		
法人名	株式会社 三友医療		
事業所名	さんゆうグループホームふいりあ		
所在地	米沢市万世町桑山4660番地		
自己評価作成日	平成 26年 11月 17日	開設年月日	平成 15年 04月 01日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月2回は外出して外食をしたり、暖かい季節にはお弁当を持って出かけたりなるべく外出する機会を多くしております。食事は季節の食材を使用し、1人1人に合った形態で提供しており、自分のペースで召し上がっていただけるよう、環境作りにも気を配っております。レクリエーションでは季節の掲示物やイベントで使用する道具などを利用者様と一緒に作成したり、お菓子作りをしたり楽しんで頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 26年 12月 16日	評価結果決定日	平成 27年 1月 8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者・職員共にとても良くコミュニケーションが図られ、ホールにはいつも歌声や笑い声があふれています。そして「自由で楽しくゆっくりと」の理念が活かされ、利用者同士が助け合い、支え合いながら食事作りやレクリエーション活動に励んでいます。開所以来続けている月2回の外出は何よりの楽しみで、気分転換やストレス解消になり、良い刺激を受け、職員は代理家族として見守りながら支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	厨房に運営理念を掲示しており、毎朝朝礼にて唱和している。ケア会議等でも運営理念に基づいた話し合いを行っている。	「自由で楽しくゆっくりと、思いやりと笑顔の中で地域とともに」の理念の基、職員は目線を合わせ、話し方や歩き方もゆっくりを心掛けて寛げるよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と共に近くの公園に出掛けたり、地域の運動会や夏祭りなどに参加し地域との交流を図っている。	町内会に加入し、回覧板等で情報等を得ている。地域の行事にも積極的に参加し、職員は地域の一員として清掃活動に参加している。また利用者は近くの公園や隣近所の花壇めぐりなどで交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方に日常的に挨拶を行い、交流を図ると共に日常会話の中で質問があれば、グループホームや認知症についてお話しさせていただいている。運営推進会議においても折に触れて認知症のお話しをさせて頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、年間計画に沿った議題にて現在の事業所の取組みや状況を報告し、参加者に意見を頂きながらサービスの向上に努めている。	家族全員に案内状を出し、曜日の変更をするなどして参加率アップに工夫が見られる。利用者の参加が和やかな雰囲気をつくり、年間計画でテーマを設けて取組みを報告し、意見や要望をもらっている。今後は地域の多くの方々に出席してもらい、認知症の理解を深めていきたいとしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、ケアサービスの取組みを伝えたり、わからないこと等、アドバイスを頂いている。	市福祉課の担当者とは長い付き合いで、運営推進会議に出席してもらい事業所の理解を得ている。適格な助言やアドバイスを運営に活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	帰宅願望の強い利用者様が入所しており、職員が手薄になる時は施錠しているが、職員が見守れる際は玄関を開放している。又、利用者様の要望を伺いなるべく外に出る機会を多く持つ様にしている。	職員は拘束をしないケアに取り組み、帰宅願望の強い方には生活歴や習慣等を把握し、皿洗いや洗濯物たたみなどをしてもらい気持ちが落ち着くよう支援している。ホームからデイケアに通っている方もおり、日中は施錠せず取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて虐待について職員全員が学ぶ機会を設けている。入浴の際に必ずボディチェックを行い、痣などがあった場合はケア会議にかけ、虐待がなかったか全員で確認する。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について研修を受け、その制度を活用しようとしても、利用者からの理解が得られない事がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書、重要事項説明書を読み合わせ説明している。特に入所や退所する際の注意点は詳しく説明した上、同意いただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やイベントにて意見、要望を話す機会を設けている。家族の参加は少ないが、なるべく参加して頂く様に声掛けを行い、少しずつではあるが意見、要望を聞けるようになってきている。	家族等からは面会時やプラン作成時を利用して意見や要望を聞き、ケア会議を通し職員は共有してサービスに繋いでいる。「ふいりあ通信」のコメント覧に必ず日頃の暮らしや連絡事項を記入して知らせている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議では職員全員が一度は発言するようにしている。又、発言した職員の意見、提案を否定しない等話しやすい雰囲気になっている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	他面考価格システムを導入し、管理者だけの評価ではなく職員同士の評価も取り入れ、公平化をはかっている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修には職員全員が参加する様にし、外部の研修には適当な職員を参加できるように配慮されている。	月2回、年間計画のテーマに沿って法人内研修を行っている。勤務体制に配慮しどちらか一回は必ず出席して学習している。外部研修は経験年数や力量に応じて学び、その後全職員に伝達講習しスキルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社会福祉事業団からの研修に参加する機会を多く設け、他事業所の方との交流を図っている。参加によってサービスの質の向上に努めている。	実践者講習や管理者講習に参加のおり他事業所の方たちと情報交換し交流している。交換実習ではいろいろな取り組みを見聞きすることで質向上に繋がっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前にご本人と面談し、要望や生活状態を把握し不安などを充分話し合い、適切なケアを行えるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前にご家族の要望や不安などを聞き、思いに沿ったサービスを提供できる様にしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様のその時の状態により、どのような支援が必要なのかを、ご家族の要望などを聞きながら職員で話し合い最適な支援を行えるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に料理や洗濯、掃除など、ご本人が出来ることや以前からやってきたことなどをご家族から話を聞きながら行ってもらっている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会や行事などに参加してもらえるような声掛けを行っている。又、ご家族との連絡を密に行い、ご本人にとってより良いケアを行っていくにはどうしたらよいのかを、共に考えていけるように努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお友達が面会に来やすいようにご家族からも声をかけて頂いたり、利用者様側からも連絡が取れるように連絡先を聞いておくなど関係が切れないようにしている。又、軽度の方については、行きたいところ等お聞きしながら、出かけられるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係により席を換えたり、一緒にレクやお菓子作りなど楽しい時間を共有し、なるべく利用者様同士が関わり合いを持てるようにしている。又、職員同士での情報の共有や、利用者様同士の中に入り関係性の強化にも努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方やそのご家族にも、いつでも立ち寄って頂けるような声掛けや、相談を頂けば可能な限り支援を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の利用者様とのコミュニケーションの中でちょっとした言動をよく観察し、ケア会議などで職員同士も共有できるようにしている。	利用者・家族等から意見や要望を聞く中で「ここにずっと住みたい」「いろんな所に出掛けられて楽しい」などの声が聞かれている。また入浴時や居室での何気ない会話を大切にして、ケア会議で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で、プライバシーに配慮した生活歴などを伺い、入居後も関わりの中でご本人やご家族に聞いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して、利用者様一人ひとりの心身状態をスタッフが観察し、ケア会議等で職員全員が把握できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で個々の生活状況、健康状態、精神面について話し合い、ご家族とご本人、主治医の意見を取り入れて計画作成を行っている。	ケア会議で利用者一人ひとりの生活状況、健康状態、精神面などについて、本人・家族等・主治医の意見を聞き話し合い計画作成している。また作成したものが現場で活かせるか職員に確認してもらい、より具体的目標を決めて取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に、ケア会議等で介護計画の見直しを行い、統一したケアができる様に職員間でも情報を共有している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事の把握を行い、積極的に参加する事で、グループホームを理解して頂いて、散歩に出かける際など気軽に声をかけて頂けるような環境づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医には月2回往診にきていただいている。他に、ご本人やご家族が希望するかかりつけ医とも、利用者様について気づいた事や変化があれば電話相談をし情報を共有している。	利用者は往診のある協力医をかかりつけ医としており、事業所と連携した健康管理で安心に繋げている。緊急時や夜間帯の対応はマニュアルに従い、薬の管理も万全にして誤薬誤飲防止に努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置がない為、利用者様について気づいた事や変化があれば直接かかりつけ医に電話相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	市内の病院の場合には、週2回はお見舞いに伺い、担当の看護師より病状の説明などを受けるようにしている。また、退院に向けての話し合いや留意点などを詳しく説明を受けることにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、事業所側で対応できるケアを入所時に説明している。	利用開始時に家族等の希望を確認すると共に、事業所で出来る支援を説明している。また、段階に応じて家族等と話し合いを持ち、医師の指示を最終判断として、家族・事業所とで支援方針を決めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けており、また、社内研修において研修課題として全職員が受ける体制になっている。緊急時対応マニュアルを活用し、学習している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を行っている。また、訓練に立ち会った防災業者に運営推進会議において講評を頂き、訓練について話し合った。	防災業者の講評を受けて、定期的な訓練の他に伝達・参集訓練も実施して職員の防災意識を高め、3月には消防署立ち合いで夜間想定訓練を予定している。地域にも協力をお願いしているがまだ体制は整っていない。	防災訓練で課題を明確にしており、地域の協力体制の構築など一つ一つを着実にクリアして、危機管理をもって臨んでいくことに期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人情報の保護に努めている。日々の関わりの中で利用者様の誇りやプライベートについて配慮し、言葉遣いや態度を接遇研修などで学習し、実践している。	職員は利用者の気持ちを理解して、レクリエーション活動なども強いることなく、その方のペースで一日を過ごしてもらうことに心がけている。また、写真の掲載やちょっとしたことにも同意を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いくつかの選択肢を準備し、利用者様が自己選択・自己決定できるよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の流れはあるものの、時間の区切りはなく利用者様のペースに合わせて、体調を見て柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えを利用者様に選んでいただいている。外出時には、特に希望をお聞きしながら身だしなみやおしゃれを楽しんでもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に希望を聞きながら、栄養バランスを考慮し、食事を提供している。料理の下ごしらえ、配膳、下膳等利用者様の状況に合わせて手伝って頂いている。行事食の場合は、特に季節の食材をふんだんに取り入れ、行事にあったメニュー選定を心がけている。	できる方には調理も手伝ってもらい事業所で三食作り、人気の行事食は赤飯や数の子豆など品数も豊富で喜ばれている。また、外食ドライブを毎月実施して変化のある食事を楽しみ事として取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が把握できるように、食事・水分量のチェック表を活用している。ご本人の嗜好や生活習慣、身体機能に合わせて飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員全員が認識しており、一人ひとりの状態に合わせて口腔内洗浄・義歯洗浄の声がけやケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。時間をみて声掛け、トイレ誘導している。排泄行為を活用し、下肢筋力強化、ADLの向上に努めている。	自立の方がほとんどで、下肢筋力を維持するために散歩や運動を積極的に取り入れている。また、毎朝の手作りヨーグルトや野菜を使った料理を提供して便秘予防にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質のものを取って頂けるよう、メニューに取り入れたり、朝食時には手作りのヨーグルトを提供している。又、水分をまめに摂って頂けるような声掛けや、毎日のラジオ体操にて体を動かして頂くよう声がけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	目安としての時間はあるが、ご本人の希望に合わせてゆっくりと入浴を楽しんで頂けるように配慮している。順番なども考慮し、気分により翌日への変更も可能にしている。	週2回を目安に入浴している。浴室・脱衣所はあらかじめ温めて個室でゆっくり入ってもらい、できる所やできる方は自分で洗っている。床にすべり止めマットを敷いて転倒防止に努め、自立の方も見守りをして安心・安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの表情や体調を見ながら、日中活動する場面を増やす工夫をし生活リズムを整えるようにしている。眠れない時にはホールにて職員と一緒に過ごして頂いたり、個人に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の薬の説明書を活用し確認、理解している。また、症状の変化の確認にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意分野や好きな事を尊重し、施設での役割を見つけ、力を発揮して頂けるような支援と発揮の場の考案をしている。又、感謝の言葉や労いの気持ちを伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に2回程ドライブや外食に出掛ける機会ををくり、気分転換や季節感を感じて頂いている。又、当社の他事業所で行われるイベントや、地域の行事にも積極的に参加して外出の機会を作っている。	日常的に近くの公園や庭におやつやお茶を持参して散歩に出かけ、花の水やりや洗濯物干しなどでも気分転換を図っている。法人が企画する「ヘルパーと行く旅」では一般の方もふれあい、事業所とは違った表情が見られる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や、買い物に出掛けた際は、ご自分で財布から金銭を出し、支払いができるよう見守り声掛けし、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話が使えるようにしてあり、手紙に着いてもあて名書きなど本人の自信がない所はお手伝いしながらやり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには食事作りの音や、香りがたち込み、生活感を感じ取れるようになっている。又、ホールには行事の際の写真を掲示したり、季節の掲示物を貼り、玄関先には季節の花を植えたり、施設内にも花を生けたりし、常に季節感を持ってもらえるように工夫している。	談笑したり歌ったり一日を和やかに過ごすホールは、家庭的でほっとする居心地よさがある。自分で作った作品や外出の写真などで会話も弾み、季節感を感じてもらえる装飾を心がけている。掃除はできる範囲で利用者も手伝い、除菌等で感染症予防も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関とホールの椅子やソファなど、気の合う方と話をしたり、お一人でゆっくり過ごせるスペースの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居いただく際、居室には今まで使用してきた馴染みのあるもの、愛着のあるものを持って来て頂くようお話し、ご本人にとって落ち着いて過ごせる居室になるようご家族と相談し、協力を得ながら行っている。	こざっぱりと清潔感のある女性らしい部屋や、身内の写真を飾り毎日菓子を供えている方など自分らしい居室作りをしている。また、こたつが好きな方は畳を敷いて、これまでの習慣を大切にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前の壁にはご利用者の顔写真を掲載し部屋が理解できるようにしたり、居室内の個々の動線に対応できるよう居室を整理している。又、玄関、トイレ、廊下、浴室、脱衣室に手すりを配置し、安全確保、自立に配慮している。			